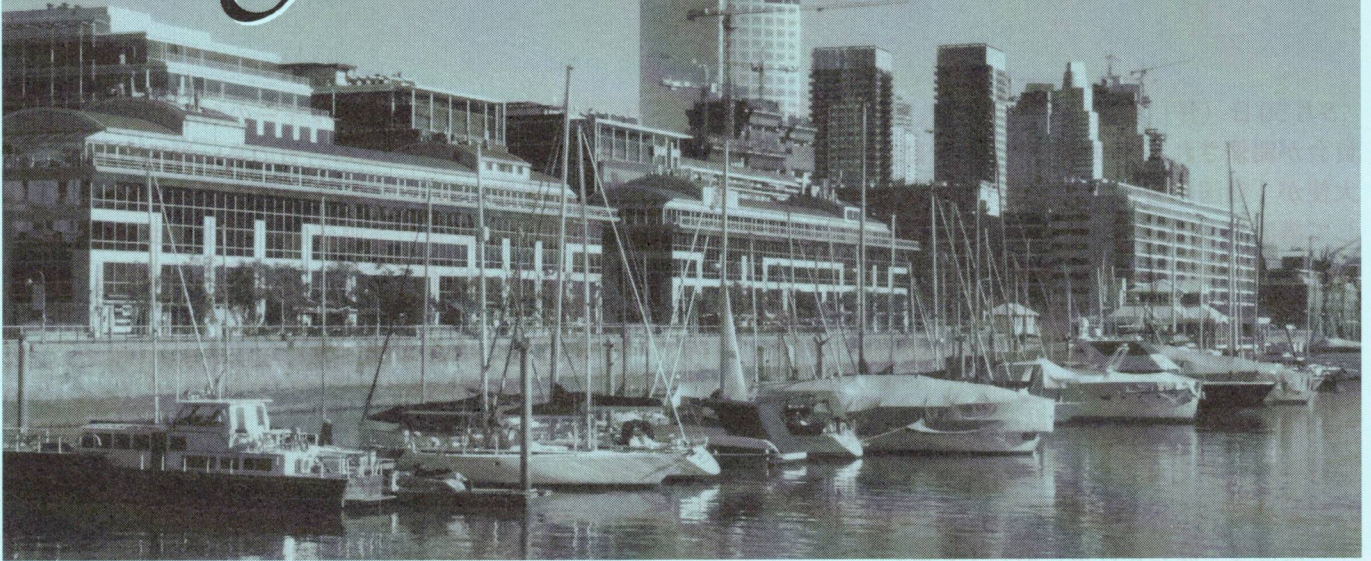


# Argentina

アルヘンディーナ

No. 58



プエルト・マデロ地区 プエノスアイレス

社団法人 日本アルゼンチン協会 会報

2011年7月

デジャン大使講演一日亜経済合同委員会にて.....2	～6月10日 長田小学校 「アルゼンチンの日のつどい」..... 12
駐日アルゼンチン新公使ご着任.....3	～6月14日 特別企画 「タンゴ音楽の集い」が中止..... 13
タンゴダンスのマエストロ、タンゴ史の生き証人 ～グローリアとエドワルドの来日.....4	会員の海外公演の案内・報告
未知の国、憧れの国アルゼンチンへ ～実用スペイン語講習生徒の修学旅行.....5	～8月27日 小原みなみ氏プエノスアイレスで コンサート ～タンゴ歌手小原さんの芸能生活25周年記念 スペシャル・コンサート..... 13
キルチネル前大統領逝去後の政局 ～アルゼンチン政治経済短信.....7	～1月29、30日 香坂 優氏 プエノスアイレス公演「源氏物語—情炎」が、 満席の現地観劇者を魅了..... 14
Resumen en castellano .....9	アルゼンチン関係ニュース紹介
協会の活動案内	1. JETRO 経済ニュース..... 15
協会主催秋の「タンゴ音楽の集い」.....10	2. サッカー名門リーベルが2部に降格..... 15
秋季「実用スペイン語講習」について.....10	
協会の活動報告	
～5月31日 第55回通常総会/ 平成23年度第2回理事会..... 10	

東日本大震災で被災された地域の皆様に、心よりお見舞い申し上げます。  
被災者並びに地域の皆様の復興に向けてのご尽力に敬意を表しますとともに、一日も早い復興をお祈り申し上げます。

# デジャン大使 日亜経済合同委員会で講演

5月30日（月）東京商工会議所で、日亜経済合同委員会が開催され、ラウル・デジャン駐日アルゼンチン大使が「亜国経済の現状—新たな投資に向けて」と題して講演をされた。当協会からは、荒尾常務理事が出席した。講演要旨は、次の通り（文責 荒尾）。

今回の東日本大震災の犠牲者に対し、心からお悔やみを申し上げるとともに、被災者の皆様にお見舞いを申し上げます。アルゼンチンは、いち早く救援を申し出た国であり、救援隊をただちに派遣するとともに、食料をお送りした。また、ティンメルマン外相が訪日し、お見舞いを申し上げた。私は、日本は、必ず近いうちに復興を成し遂げると信じている。

私自身は弁護士であり、8年間の民間での職業のうち、35年間、経済省及び外務省で公的生活を送ってきた。そのなかで、経済、特に国際貿易に関する業務を専門としてきた。

ラ米諸国のかかなり多くの国が200年前に独立に向かって動き始めた。その動きのなかに各国に共通するものがあつたので、統合への意識が強く、そのための協力をしてきた。その一つの例が、メルコスールである。メルコスールは、面積1300万平方キロ、人口2億5000万人の市場である。EUと2012年に協定を結ぶ予定である。インド、南ア、イスラエル、エジプトなどと協議中であり、シンガポールや韓国も関心を表明している、日本とは、協定締結に向け、調査を開始したいと考えているが、産業同士の競争、特に農業部門に問題がある。

アルゼンチンは、この28年間にわたり、民主政治がおこなわれている。

農産物の生産のみならず、大豆油、蜂蜜、レモンジュースなど加工品の生産も拡大している。バイオ燃料、風

力、太陽光などの自然エネルギーの利用も進んでおり、石油ガス資源も豊富である。質の良い労働力もある。

最近6年間の経済成長は、年率平均8,5%であり、2011年の経済成長の予測値は、8,2%である。今年の直接投資は、685億ドルで、ブラジル、中国からの投資が多い。

日本とは、1898年の通商友好条約の締結以後、110年間、良好な関係を保持している。しかし、この10年間、債務のホールドアウト、パリクラブの問題などで、影響を受けてきた。ホールドアウト債については、97%が解決をしており、また、パリクラブについては、この数カ月で解決策が出る状況である。これに伴い、国際金融機関も融資を再開するであろう。

日本との貿易は、2010年で1,863百万ドルであり、日本とブラジルの間の160億ドル、日本とチリの間の105億ドルに比し、極めて少ない。是非拡大したいと思っている。特に、食肉、かんきつ類を市場に進出させたい。このような時に、JETROが事務所を縮小したことは混乱をもたらす。

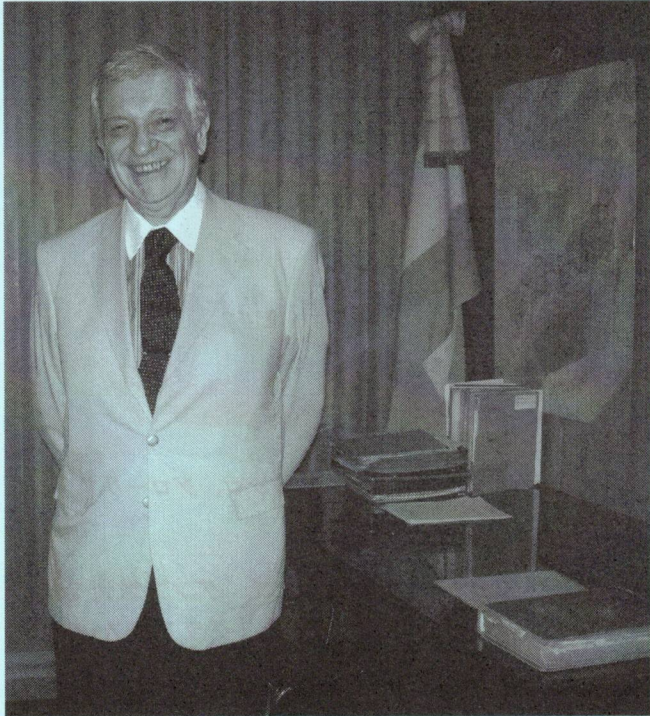
日本とは、MOUを結び、官民共同の経済通商委員会を設置し、定期的に話し合いを行うことを希望している。これは、民間レベルの日亜経済合同委員会と調和して展開できるものである。

世界の人口増加により、食料のニーズは大きく増大している。インターネットの普及により、世界の諸国のアクセスは密接になっている。日本とアルゼンチンとの関係も一層強化しなければならない。

在亜日本大使館は、そのために最大の努力をしたいと考えている。また、日本の皆様にも開かれている。

# ルイス・J・アレギ

## 駐日アルゼンチン共和国新公使ご着任



ルイス・J・アレギ公使 (Minister . Luis J. Arregui)

新公使ルイス・J・アレギ氏は、6月上旬来日され、公使としての公務を開始されています。

6月27日(月)、当協会の荒尾・加藤両常務理事が新公使を表敬し、懇談しました。

公使は、1989年から1993年まで在日アルゼンチン大使館の次席として日本滞在されており、日本について大変深い知識をお持ちで、この度、美しい国、日本に再び在任することになり、日本滞在大変期待を寄せられています。

前回の日本赴任直前までは、ハンガリーのアルゼンチン大使館に務めており、同国でハンガリー人である現夫人と婚約、在日アルゼンチン大使館にご着任後、東京で日本式の結婚式を挙げられた由で、現在3人のお子様の中、ご長男(19歳)は、日本生れとのこと。

現在は、单身ですが、年末近くには、ご夫人と共にお子様たちも(お子様は2カ月滞在予定)来日予定とのこと、楽しみにされています。

日本・アルゼンチン両国の友好関係増進に努力してゆく所存であるので、どのような事でも、公使に申し出て頂き、関係を密にしてゆきたい旨お話しがありました。

ルイス・J・アレギ公使は、1977年にキャリア外交官となり、日本赴任直前のポストは、本国の外務省国際薬事問題担当次長で、また1978年以来、国連会議へのアルゼンチン代表団のメンバーの一人となっております。

又、ブエノスアイレスのベルグラノー大学の国際関係史の教授を務め、また、ソフィアの新ブルガリア大学のアルゼンチン/ラテンアメリカ文学の教授を務めたこともあります。

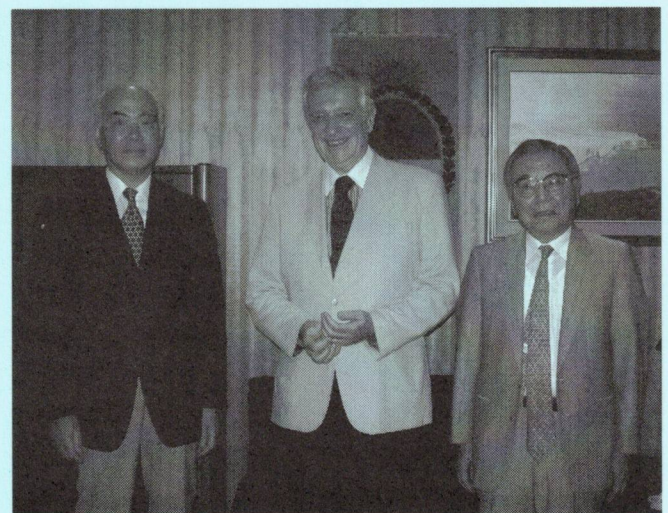
公使の経歴について、下記に要約します。

### ルイス・J・アレギ公使

- 1978—1980 技術協力担当官
- 1980—1984 在ユーゴスラビア アルゼンチン大使館次席
- 1984—1988 外務省総務・技術局課長
- 1988—1989 在ハンガリー アルゼンチン大使館次席
- 1989—1993 在日アルゼンチン大使館次席
- 1993—1995 外務省総務局次長
- 1995—2000 在EU アルゼンチン公使(政治関係担当)
- 2000—2003 外務省東欧局次長
- 2003—2009 在ブルガリア アルゼンチン大使館次席
- 2010—2011 外務省国際薬事問題担当次長

趣味：読書、クラシック音楽

語学：英語、フランス語、イタリア語、スペイン語



向かって左から；加藤、新公使、荒尾



# タンゴダンスのマエストロ、タンゴ史の生き証人

## —グローリアとエドゥアルドの来日

飯塚 久夫

昨年は、アルゼンチン建国200周年ということで、タンゴ関係のイベントも数多く行われましたが、本年は、“タンゴの王様”フランシスコ・カナロ来日50周年となります。

カナロ（1964年死去）といえば、タンゴ人の中でも最も有名な一人なので皆さんもご存じのところでしょう。本場アーティストの来日としては、1954年に弟のファン・カナロが初来日しているのですが、日本のタンゴ界からすると、このフランシスコの61年来日が最も画期的な出来事でした。当時はポピュラー音楽としてもタンゴがメジャーの時代。今はなき新宿コマ劇場を始め、日本全国の演奏会を興奮の渦と化しました。さらに、同時に、アルゼンチンのフロンディシ大統領が来日し、天皇陛下が空港までお迎えに出向かれたという両国関係でした。

そして、その時カナロ楽団に帯同した踊り手が“グローリアとエドゥアルド”という当時15歳と25歳の若者カップル。この二人のダンスも観客を魅了しましたが、当時はダンスといえば、社交ダンス全盛の時代、アルゼンチン流のダンスが流行するのは、1987年の「タンゴ・アルヘンティーノ」というダンス・ショーがブロードウェイも席卷した後、日本に紹介されてからのこととなりました。

グローリアとエドゥアルドは、1984年来このタンゴ・アルヘンティーノのオリジナル・メンバーでもあり、日本のみならず、今日、アルゼンチン流のタンゴ・ダンスが世界的ブームとなっていることの立役者です。彼らはそれに先立ち、72年、フロリンド・サッソーネ楽団にも帯同して来日し、(いまはなき)“すいよう会”というタンゴ愛好会の主催で3日間にわたり日本初の



Eduardo, Canaro y Gloria.

1961年来日時の、エドゥアルド、カナロ、グローリア

本格的なアルゼンチン流のタンゴ・ダンス教習を行ったのです。遡れば、61年の来日後、「グランデス・パローレス・デル・タンゴ」「ブエノスアイレスよ、おまえに歌う」といったアルゼンチンの人気テレビ番組でも活躍してきました。いわば、彼らはダンスのみならず、タンゴ音楽にも造詣があり、今日のタンゴ・アーティストの中で“タンゴ史の生き証人”といっても良いほどの存在です。

この間、彼らは何度となく来日しており、日本のタンゴ・ファンに最も馴染みのあるタンゴ人とも言えます。この二人が今年も“タンゴ・ダンス世界選手権アジア大会”の審査委員長として来日してくれました。この機会に「エドゥアルドとグローリアの見たタンゴの歴史」というセミナーを企画し、当協会/日本タンゴ・アカデミー共催で、去る6月14日に「両名と共にセミナーとタンゴ音楽の集い」を開催することで皆様にご案内しましたが、チリの火山爆発の影響でブエノスアイレス空港が一時閉鎖し、フライトが延期になり中止せざるを得なくなりました。

しかし、お二人とラティーナ社本田社長のご厚意により、予定より1週間遅れて6月23日に多少縮小する形で実施することが出来ました。その席上、二人は、61年来日時のエピソードから今日に至る彼らの世界中での活躍の模様を映像で披露してくれました。

61年、フロンディシ大統領一行の来日に際して、在亜日本大使館から一時帰国された林屋永吉氏（現在当協会顧問、元スペイン大使）がフロンディシ大統領の通訳をされているシーンも上映されました。当協会か



踊るグローリアとエドゥアルド

らは、木島理事長はじめ役員、会員が参加し、極めて貴重な2時間のセミナーが行われました。

今年は、東日本大震災により、筆者が故石川浩司理事の後を引き継いでおります「タンゴ音楽の集い」も中止されたままですが、10月21日（金）には“タンゴ—その音楽と踊りの伝統と真髄を探る”というテーマで再開する予定です。引き続きアルゼンチン文化の重要な担い手であるタンゴについても、いろんな側面からのご紹介をして参りますので、今後とも協会会員の皆様をはじめ各方面の方々のご指導・ご参加をよろしくお願ひしまして本稿を締めくくります。

(いづか ひさお：当協会理事、  
日本タンゴ・アカデミー副会長)



タンゴ世界選手権アジア大会で  
(6月19日横浜港大棧橋ホール)；向かって左から、  
寺本理事、飯塚理事、エドワルド、グローリア、加藤



## 未知の国、憧れの国アルゼンチンへ

### —実用スペイン語講習生徒の修学旅行

三沢 まり

憧れのアルゼンチンに行って来ました。今年（平成23年）1月21日から2月4日迄の17日間、お正月を終えたばかりの真冬の日本から真夏のアルゼンチンへの修学旅行。

美味しいお肉とワインとタンゴ。そしてイグアスの滝は本当に素晴らしかったです。

私は日本アルゼンチン協会（以下、‘協会’）事務所から歩いて5分の新橋駅前でお料理店を営んでおります。

協会にお世話になるようになりましたきっかけは、いまから6年前。

スペイン語を勉強したくなっていたところ、たまたま来店のお客様の中に協会の理事の方が、“それならばうちにいらっしやい”と声をかけてくださいました。

その一言で協会の「実用スペイン語講習」の教室に通うようになった訳です。

多くの語学教室は夕方からのクラスが殆どですが、協会には昼間のクラスがありました。

毎日仕事に追われており、たまに海外旅行に行く事が私の最大の楽しみでしたので、スペイン語が出来れば旅行先がかなり広がりますし、また未知の国アルゼンチンへの興味と憧れが湧いてきました。

最初の先生はグラシエラ先生。生徒はアルゼンチンとタンゴが大好きな会社の元社長、タンゴ歌手、タンゴダンサー等何度もアルゼンチンに行った事がある人ばかりで少し気がひけましたが、私は私のペースでと割り切り勉強を始めました。しかし文法に馴染めず、またスペイン語を使う機会もないのでほとんど身につ

かず常に初級コースでした。でもそれがよかったみたいです。必要で簡単なフレーズは長年の勉強の成果でなんとなく身につけていったようです。

昨年は、アルゼンチン建国200周年で、協会で開催された日亜親善サッカー大会と日比谷公園での建国200周年記念「アルゼンチン祭」のイベントのお手伝いをしました際に、アルゼンチン大使館の方とお話しをする機会に恵まれました。その時、しみじみ思ったのですが一度もアルゼンチンに行った事もないのに大好きな国ですなどと言っているのは失礼ではないかと。

今年もどうも景気が良くないので、この状況なら店を休んでも影響も出ないのでは、行くなら今しかないとアルゼンチン行きを決断。しかしそれからが大変。



イグアスの滝、悪魔ののど笛の前で

情報収集と予算と時期の設定。まずはガイドブック「地球の歩き方」を買ってきてルート作り。飛行機は早割りです。予約。ホテルの場所をどこにするか。南米専門の旅行社に問い合わせる。現地のリスク情報の入手等、ネットでアルゼンチン関連サイトに入り浸り。とくにバス会社のサイトはスペイン語で予約を入れて、承認のメールが来て喜んでいたのですが決済のサイトに繋がらず。現地の旅行社にお願いしたらバスは取り扱っておらず、結局実現できませんでした。

次回は必ずやバスでバルデス半島に行ってみたいと思っております。

一般の旅行会社の10日間のツアー料金で17日間滞在する為にはどうしたらよいか。試行錯誤の末の日程と予算でした。まずブエノスアイレスに行き体調を整え落ち着いてからイグアスに移動。イグアスではタクシーでブラジル側に国境越え（イグアス滞在4日間）、ブエノスに戻り市内観光、日本のタンゴ歌手香坂 優氏が総合プロデュース・主演でブ市内の日本庭園で公演予定の能とタンゴが織りなす「源氏物語—情炎」の観劇、パラナ川でドラド釣り（2日間）‘タンゴショー’巡り、牧場ツアー等スケジュール満載です。しかし実際ブエノスに着いてからはいろいろ思いがけない事が起こりました。

まず空港で携帯のレンタルを忘れてしまった事。イグアス国立公園で帰りのタクシーを探していたところ、丁度、私の泊まっているホテルを通るので乗っていかと日系のガイドさんに声をかけられホテルまで便乗。ブラジルが物価高でパラグアイまでの買い物&観光ツアーだそうです。お返しに梅干飴を渡しました。

ブエノスに戻ってからメチ先生（スペイン語講習の先生）に、レティーロ駅からレコレータ墓地周辺を案内していただき、帰りはカジャオ通り迄歩いて地下鉄



レコレータ地区散策の途中、メチ先生と

に乗りカテドラル（大聖堂）迄。カテドラル内は涼しいのでミサ中にのんびり休んでいましたところ、神父様が側に来られて私の頭に手を乗せてお祈りしてくださいました。何故か幸せでした。単語を並べて留守電にメッセージを残しておいたら返事が来たこと等。またホテルはフロリダ通りの裏でしたので移動、食事等には便利でした。

一番楽しかったことは、タクシーの運転手さんとの会話でしょうか。皆さん個性があり、大好きなタンゴを聴いている人が多く、夜はこの辺は歩くなどかいろいろ教えてもらいました。お陰様で沢山の現地の日本人とアルゼンチンの方々の御好意に支えられて素晴らしい旅行ができてうれしく思っております。今回は5年間親身に教えていただいたグラシエラ先生が夏休みでブエノスにおられずお会いできなくて残念でした。何度か電話でお話しが出来て上手になったとほめられてとてもうれしかったです。次回にお会いできる事を楽しみにまた勉強を続けてまいります。

最後にスペイン語を勉強されている皆様に“継続は力なり”でしょうか。

(みさわ まり：当協会会員)



アルゼンチン国立タンゴアカデミー博物館訪問；  
向かって左から 博物館の事務所長、筆者、  
ガブリエル・ソリア タンゴアカデミー第一副会長

# キルチネル前大統領逝去後の政局と経済

— 亜国政治経済短信

荒尾 保一

## 1. 次期大統領選挙への動き

昨年10月のキルチネル前大統領の突然の逝去は、同氏がフェルナンデス大統領の背後にあって、政治的実力を保持し、実質的に政治を指導する立場にあっただけに、同氏逝去後の政局の行方が注目されるどころであった。

フェルナンデス大統領は、葬儀が終了すると、葬儀への参加を感謝するとともに、キルチネル前大統領の功績を称える演説を行い、この大きな業績を引き継ぎ、さらに進展させる責任を感じていると述べ、公務を再開した。

このフェルナンデス政権の行方に大きな影響を与えたのは、シオリ ブエノスアイレス州知事の動きであった。同氏は、故キルチネル氏在世中には、時に同氏を批判する発言をし、次期大統領選において、フェルナンデス大統領に対抗して出馬するのではないかとの観測もあるほどであった。しかし、キルチネル氏死去後、直ちに、シオリ知事は、キルチネル派の市長や議員たちを集めて集会を開き、前大統領の業績を称賛するとともに、フェルナンデス大統領を一致して支持しようと呼びかけた。これに対し、出席者たちも、フェルナンデス大統領支持を表明した。

他方、ペロン党内の反キルチネル派では、ドゥアルデ元大統領、ソラ下院議員、レウテマン上院議員、ロドリゲス・サア サンルイス州知事などが会合を開き、その多くは、フェルナンデス大統領への協力の可能性を否定した。

この中で、ドゥアルデ元大統領は、自分は、アルゼンチンに平和と秩序を齎すことができる唯一の人物であると述べ、立候補の意向を表明した。その後、ドゥアルデ元大統領、ロドリゲス・サア・サンルイス州知事及びダス・ネベス・チュブット州知事の3名は、ペロン党反キルチネル派の大統領候補選出にあたり、8月14日に予定されている公式の予備選挙に先立ち、ペロン党反キルチネル派内において独自の予備選挙を実施する旨合意するに至った。この予備選挙は、派内の駆け引きで結局実施されなかったが、ロドリゲス・サア知事は自分が同派の候補に選ばれたと主張している。ドゥアルデ氏は、これを認めず、自らの大統領選への出馬を繰り返し述べている。

一方、野党急進党では、12月、いち早くアルフォンシン下院議員（アルフォンシン元大統領の子息）が、フェルナンデス大統領の経済政策や社会政策を批判

し、自分は、大統領府へ向かって重要な一步を踏み出すと述べ、次期大統領選への出馬の意向を表明した。

急進党執行部は会合を開き、8月14日に予定されている公式の予備選挙に先立ち、同党が独自の予備選挙を実施することとなった。この党内予備選挙には、アルフォンシン下院議員のほか、同党党首のサンス上院議員も出馬の意向を表明し、その準備のため、急進党党首を辞任した。後任の党首には、ロサス筆頭副党首が選任された。

かねてから出馬の噂のあったコボス副大統領は、この予備選挙には出馬せず、大統領選に立候補する場合は、8月14日の予備選挙に出ると述べた。その後、サンス上院議員も、4月30日の予備選挙には出ず、8月の予備選挙に出るとの意向を表明したため、ロサス急進党党首（アルフォンシン派）は、アルフォンシン下院議員を公式な大統領候補として宣言するだろうと述べた。これを受け、急進党執行部の会合が開催され、アルフォンシン下院議員を次期大統領選挙における同党の公式候補と認定する旨決定された。

サンス上院議員は、急進党において最も当選の可能性が高い大統領候補はアルフォンシン下院議員であることを考慮して、私は、その競争者になることを止め、アルフォンシン下院議員が急進党全体を代表する候補であることを認めると述べ、次期大統領選挙への出馬を断念する旨発表した。同日、アルフォンシン下院議員は、次期大統領選挙のためにサンス議員と協働できるということに、私は安心し、これを嬉しく思うと述べ、サンス上院議員の上記決定を歓迎した。また、各紙は、アルフォンシン下院議員が、デ・ナルバエス下院議員（ペロン党反キルチネル派）やマクリ・ブエノスアイレス市長（共和国提案）と協力体制を形成する可能性も検討し始めていると報じた。

このほか、市民連合では、全国大会を開き、カリオ市民連合代表を大統領候補、ペレス副代表を副大統領候補として、大統領選を戦うことを決定している。

また、「南プロジェクト」のソラナス下院議員も、貧困問題を解決し、汚職と戦うため立候補すると述べている。

有力な大統領候補と目されてきたマクリ ブエノスアイレス市長は、2月、大統領選挙出馬を表明した。この場合、ブエノスアイレス市長を辞任することになるので、大統領選と市長選を同日に実施することにより有利に選挙を戦うとの意向も表明していた。

しかし、急進党の候補がアルフォンシン下院議員に決定したところより、大統領選への出馬の意向を保留するようになった。結局、プエノスアイレス市長選挙は、7月10日に実施されることとなり、マクリ市長は、この選挙の立候補者として登録されることとなった。

ペロン党においては、5月に、党全国執行委員会及び全国大会が相次いで開催され、フェルナンデス大統領を次期大統領候補とすることが全会一致で合意された。また、労働総同盟（CGT）も、フェルナンデス大統領支持を表明している。

その後、フェルナンデス大統領は、自らの立候補については、口を閉ざしていたが、今月20日、ロサリオ市にある国旗記念塔前で挙行された国旗の日祭典の席上、国旗の日とはあまりにもかけ離れたキルチネル派称賛の演説を行い、大統領として再選を望む旨の正式発表はしなかったものの、事実上再選への旗揚げという内容の演説であったため、マスコミや政治評論家はこれをもって立候補の名乗りを上げたとみなした。

そして翌21日、大統領府で行われた「テレビを皆に（Television para todos）」計画（全ての家庭がテレビを購入できるよう、メーカーに安価、かつ低利で供給することを措置）の発表をした際、正式に再選を求めることを認めた発言をした。

各政党は、25日午後12時までに候補者リストを選挙管理当局（司法当局）に提出しなければならないところ、フェルナンデス大統領は、同日午前、オリボス公邸で各州知事出席の下に行われた発表会で、ブドウ経済相を副大統領候補に指名した旨を明らかにした。同日の朝刊やマスコミはアバル・メディナ氏を最有力視していたが、ブドウ氏が選ばれたことは、今回の人選がフェルナンデス大統領、サンニニ官房長官などごく僅かの人によっておこなわれたことを裏付けていると報じている。ブドウ経済相自身も直前に知らされたようであるが、キルチネル前大統領に続き、フェルナンデス大統領も、ペロン党の人事を完全に牛耳っている証とみられている。

## 2. 議会との関係

現政権は、議会において少数政党になっていることは既報のとおりであるが、これが議会運営の困難な状況を生みだしている。

2011年の予算の審議は、昨年11月に行われた。まず、下院予算委員会において、2011年予算法案が審議され、野党による意見書が2つに割れたことから、与党による意見書が多数派として採択され、野党による2つの意見書は少数派として採択されなかった。ついで、下院本会議において本法案が審議されたところ、本法案を予算委員会に差し戻す動議が可決された。しかし、与党は、下院本会議において、本法案の審議を試みたが、定足数不足により休会となった。これに対し、野党は、

下院本会議において、本法案を下院予算委員会において審議することを承認するための決議案の可決を試みたが、これも可決に必要な賛成票は得られなかった。

このような事態に対して、ランダッソ内相は、フェルナンデス政権が、本法案の審議のため、通常国会の会期終了後、特別国会を召集することはない旨述べた。結局予算案は、国会の承認を得られないままに、通常国会が終了した。このような場合は、政令により、2010年の予算が2011年予算に適用されることになっているが、政府は、この政令を適用したうえ、緊急大統領令（DNU）により、この予算を修正するという異例の措置が取られている。

その他の法案の審議においても、野党の協力により成立する法案も多数あるが、野党の賛成が得られない法案については、その内容を政令などの行政措置により実施する事例も見られる。

## 3. 労組との関係

CGTをはじめ多くの労組は、フェルナンデス大統領を支持しているが、最近、両者の関係は、微妙に変化しつつある。

昨年来、フェルナンデス大統領は、モジャーノCGT書記長に対し、労使交渉に関し、法規に従い、責任ある行動をとり、交渉を穏和に行うよう求めてきた。最近の物価上昇を背景に、労組が大幅な賃上げを要求し、ストが発生していることを大統領が牽制しているという構図である。

5月にフェルナンデス大統領は、モジャーノ書記長をはじめCGT幹部と会議を行った際、フェルナンデス政権の政策モデルを尊重して労使交渉を行うよう要求し、CGTは、私の再選を支持するよりも、物事を穏和に解決するようにして貰いたいと述べ、労組を批判したと伝えられている。

## 4. 経済情勢

2010年第4四半期の実質GDPは、前年同期比9,2%増、前期比2,5%増と、5年連続のプラス成長であった。設備投資や建設の大幅な伸びを受けて固定資本形成が24,7%増と高成長を支える要因となった。民間消費及び政府消費も高い伸びを示した。また、輸出は伸び幅が減少したが、輸入が大きく増加した。GDPデフレーターは18%増、民間消費デフレーターは14,8%と物価の大幅上昇を反映する結果となった。

2010年通期の実質GDPは、前年比9,2%増と2005年以来の高い伸び率となり、世界的にも最も高い経済成長を遂げた国の一つとなった。

5月の消費者物価指数は、前年同月比9,7%上昇となり、インフレ問題が重要な課題となっている。また、卸売物価指数も12,5%の上昇となっている。



為替レートは、緩やかなペソ安となっており、5月末1ドル=4,09ペソである。

外貨準備高は、5月末で521億ドルである。

昨年11月、フェルナンデス大統領は、パリクラブとの交渉を開始すると発表した。この中で、大統領は、債権国がIMFの関与なしに交渉に応ずることを受け入れたので、交渉を開始すると述べ、亜国の返済は、社会的包摂を伴った経済成長を継続することが可能とな

るような返済期間でなければならないと主張した。

その後、ブドウ経済相は、フェルナンデス パリクラブ議長と会談し、第1ステージとして債務額の突合を行い、第2ステージで債務返済計画を策定するとの作業手順に合意した。ブドウ経済相は、6月には原則合意に達するであろうと述べている。

(あらお やすいち：当協会常務理事)



## Resumen en castellano

por Irene Gashu

### Conferencia del Embajador Dr. Raul G. Dejean Rodriguez (p. 2)

El 30 de mayo, el Embajador de Argentina, Raúl Dejean dio una conferencia en la Cámara de Comercio de Tokio sobre la situación económica de su país y la posibilidad de nuevas inversiones. Mercosur firmará un acuerdo con la Unión Europea en 2012. Hace 28 años que Argentina goza de un gobierno civil, con un promedio de crecimiento económico de 8,5 % anual. El Embajador expresó su deseo de aumentar el comercio con Japón ya que comparado con Brasil y Chile, es muy reducido.

### Nuevo Ministro de la Embajada (p. 3)

Ha asumido su cargo el nuevo Ministro de la Embajada de Argentina, Luis J. Arregui. Del '88 al '89 fue Deputy Chief of Mission, Embajada Argentina en Hungría, del '89 al '93 en Japón y del '03 al '09 en Bulgaria. Desde 1978, ha sido miembro de numerosas delegaciones de su país a conferencias de las Naciones Unidas. Su cargo inmediatamente anterior fue en la Cancillería como Vice Director de la Dirección General de Asuntos Internacionales sobre Drogas.

### Visita de los Maestros del Tango, Gloria y Eduardo (p. 4)

por Hisao Iizuka

Este año se cumplen 50 años de la memorable visita a Japón del Maestro Francisco Canaro en 1961. En esa oportunidad, dos jóvenes bailarines de tango, Gloria y Eduardo, acompañaron al gran Maestro. Desde entonces, esta pareja visitó Japón en varias ocasiones. En 2011, también vinieron para presidir el jurado de la

Competencia Mundial de Tango en Asia. Además, el 23 de junio, Gloria y Eduardo realizaron un seminario sobre la historia del tango. Les recordamos a nuestros socios que el 21 de octubre se realizará la próxima "Reunión del Tango" de nuestra Asociación.

### Viaje a Argentina, el país de mis sueños (p. 5)

por Mari Misawa

Al fin pude conocer Argentina, el país de mis sueños. Deliciosa carne, vino, tango y... las cataratas del Iguazú. Una maravilla. Hace 6 años, empecé a asistir a los cursos de español de la Asociación. Tengo un pequeño restaurante cerca. En Buenos Aires, tuve el placer de reencontrarme con una ex profesora del curso, la Sra. Mechi. Además, disfruté mucho conversando con los taxistas. A los que están estudiando español quisiera decirles que "el que persevera, triunfa".

### Situación política y económica (p. 7)

por Yasuichi Arao

El Gobernador Scioli anunció su apoyo a la Presidenta Fernández. El ex Presidente Duhalde afirmó que se postulará como candidato, al igual que el Diputado Alfonsín, hijo del ex Presidente Alfonsín. El partido peronista y la CGT apoyarán a la Presidenta Fernández. La situación en el Congreso es difícil porque el partido gobernante no posee la mayoría. El crecimiento económico en 2010 fue del 9,2%. Argentina es uno de los países de mayor crecimiento económico en el mundo. La inflación es uno de los problemas más importantes. A fines de mayo, el dólar estadounidense estaba a 4,09 pesos.

# 協会の活動案内

## 1. 協会主催「タンゴ音楽の集い」 開催予告

本年は、3月18日予定していた第16回「タンゴ音楽の集い」が、3月11日発生した東日本大震災のため中止。続いて6月14日実施予定していた特別企画「エドワードとグローリアによるタンゴの集い」が、両氏の現地出発直前に発生したチリ南部火山の噴火により、現地空港が一時閉鎖され、両氏の来日が遅れた為、急きよやむなく中止とせざるを得ない事情となり、皆様にご迷惑をおかけしました。

次回、第16回「タンゴ音楽の集い」は、10月21日(金)18:30より、JR新橋駅から徒歩3分、当協会事務所隣の光和ビル内ホールで開催します。

テーマを、「タンゴ—その音楽と踊りの伝統と真髄を探る」と題して、毎回好評の当協会理事飯塚久夫氏の名解説とトークで、楽しい集いにしたいと計画しております。

皆様、多数のご参加をお待ちしますので、ご予約定置ください。

詳細内容は、追って皆様にご案内します。

## 2. 秋季(2学期) 実用スペイン語 講座開催のご案内

平成23年度2学期「実用スペイン語講座」が9月5日より開講、12月5日までの期間予定で始まります。初心者コースから中級、上級コースを取りそろえています。

詳細は、当協会事務所(電話;03-3501-4684, e-mail;argentina@nifty.com)に直接ご照会ください。

資料「第2学期西語講座案内」を準備次第、ホームページにも掲載します。

# 協会の活動報告

## 1. 5月31日 第55回通常総会/ 平成23年度第2回理事会

第55回通常総会が5月31日(火)15:00から米州開発銀行アジア事務所会議室(千代田区2-2-2富国生命ビル16階所在)で開催された。

冒頭、友国会長は、このたびの東日本大震災により被害を受けられた方々並びに協会関係者の方々に対しお見舞いの言葉を述べられた。また、通常総会はこれまで、駐日アルゼンチン大使のご厚意によりアルゼンチン大使館の施設を使用させて頂き開催していたが、同大使館も震災関連の対応で多忙を極めていることから、他の適当な施設を探していたところ、米州開発銀行(IDB)アジア事務所上田所長のご厚意により、本会場での開催となったこと、また、総会の後同時に開催していた「懇親会」は、本年は大震災による諸般の事情を考慮して、自粛の意を込めて中止した旨報告があった。

現在の登録正会員、法人会員19社、個人正会員84名で総議決権数は103個。これに対し出席の正会員25名、委任状提出が38名、合わせて議決権を有する出席

総数は63個で過半数を上回り、定足数を満たしていることが確認された上、友国会長が議長を務め、総ての議案が滞りなく承認・可決された。

本年度は、理事・監事の改選期に当たり、再任を含めて27名の理事と2名の監事が選任された。これら新役員の氏名は、登記完了次第、協会のホームページに掲載します。

平成22年度活動報告では、年度末の会員総数が正会員108名(法人20社、個人88名)、賛助会員136名、学生会員1名で計245名であること、前年度比は法人不変、個人9名増、賛助19名増、学生1名増であることが報告された。

協会会務としては、通常総会、理事会の開催、外務省への年度事業報告、6年間の日本在任を終え帰国されたポルスキ前大使夫妻の送別晩餐会の開催、並びにアルゼンチン建国200周年記念事業の計画立案、実施に当たり、在日アルゼンチン大使館に協力し、当協会としても、事業の主催、共催、後援を行ったことが報告された。

文化活動としては、5月25日のアルゼンチン建国200周年記念式典への参加、当協会が主たる関与をし

た主要事業7件の成果について報告があった。特に8月28日の「ファイスタ・アルヘンテイナー in 日比谷公園」は好天に恵まれ、初めての試みの「アルゼンチン祭」で、予想を越えた延べ4000人以上の来場者で成功裡に納めたイベントであったこと、また、10月11日の日亜親善サッカー大会は、JEF千葉/長田小学校のご協力によりJEFレディースU-18の本拠地（習志野市）で、素晴らしいピッチで、小学生4チーム、成人2チームの3試合に、日亜混合チーム vs JEFレディースU-18の試合。

この日の3日前（10月8日）に、来日中のアルゼンチン・ナショナルチームがザック・ジャパン・チームと戦った際頂いたメッシ選手他アルゼンチン・イレブンのサイン入りジャージーがはためく下で、特に小学生たちは、はつらつとピッチで動き、メッシのサインに目を輝かして、未永く記憶に残る体験だったことが報告された。

「実用スペイン語講座」は、途中講師1名の辞任、また東日本大震災により一時中断という予期せぬことが発生したが、クラスの効率化をも図り、所期の目標通り実施したこと、「会報」、「協会だより」の発行が報告された。

本年、平成23年度活動方針に関しては、木島理事長が、従来の基幹事業を中心にさらに協会活動を充実していく旨の方針を披歴した。具体的には、

- (1) 会員の増加を図り、活動基盤を強化する。
- (2) 「タンゴの集い」を中心に、タンゴ関連事業の充実を図る。
- (3) スペイン語講座事業の更なる充実を図る。
- (4) 会報、協会だより、ホームページのさらなる充実を図る。

更に、今年度は、公益法人制度改革問題との絡みで、当協会が向かう法人形態の最終的方向付けを行う時期に入っており、一般社団法人の選択を念頭に作業を詰めていきたい旨説明があった。

決算・予算関係では、平成22年度の収支決算結果は、期初予算での600千円の赤字に対し、実績では400千円の赤字に圧縮出来たこと、平成23年度予算では、会員減による会費収入減、事業活動の収支悪化が予測されるが、人件費をはじめ経費節減に努める。

しかし最終的には、約330千円の赤字を見込まざる

を得ない状況化で、新規会員の獲得に向けて会員各位の更なるご支援をお願いしたい旨要請があった。

友國議長は、今総会をもって退任される井尻収一、小宅庸夫、河崎勲、京谷弘司、田原清美、林屋永吉、舩松伸男の各理事に対し、これまでの当協会に対する尽力に謝意を表明し、また、上記退任理事のうち、河崎勲、京谷弘司、田原清美、林屋永吉、舩松伸男の5氏には、顧問として引き続き当協会発展の為、助言をお願いすることとした旨報告があった。

（計報）

上記の通り顧問就任が決まっておりました田原清美様が、5月末に急逝された旨、ご子息様から通知を受けました。

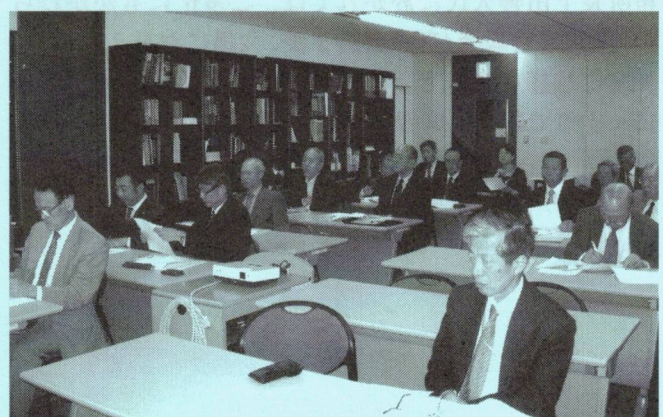
生前、長年に亘る理事としてのご指導、ご協力に対し感謝申し上げますとともに、

田原様のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

総会報告事項として、荒尾常務理事から、公益法人制度改革への当協会の対応としては、一般社団法人に移行することを基本方針としたいとし、その理由について、概ね以下のとおり説明があった。

当協会は、これまで日亜友好関係の増進のため公益的な事業を推進してきた。今後もその方向に大きな変更はない。したがって、公益社団法人へ移行することが適当との考えもあるが、主として次の実務的な理由から、一般社団法人を選択することが適当であると考ええる。

- ① 公益社団法人に移行するためには、公益目的事業に費消する経費の額が総経費の2分の1以上でなければならないが、この条件を満たすことは非常に困難。
- ② 公益社団法人の場合、行政庁への手続きが膨大であり、事務局体制の大幅強化が必要となり、ひいては経費の著しい増加を招く。
- ③ 当協会の場合、公益社団法人を選んでも、税法上のメリットは殆どない。
- ④ 一般社団法人を選んだ場合でも、日亜友好親善の増進という目的に向かって、十分に、自律的かつ円滑な事業運営をすることができる。



次に、今後のスケジュールとしては、本日の総会において、上記対処方針について、基本的な合意を頂いた上で、新制度への移行が可能となるように、事業運営、会計制度の整備を図る。また、現在の協会の定款を一般社団法人としての定款に変更する準備を行う。これと並行して、申請書及び公益目的支出計画の作成の準備を行う。

以上の準備をしたうえで、平成24年5月の総会で、移行の最終決定を頂き、定款変更の決議を行う（移行の認可の登記を停止条件とする。）。

同総会終了後、できるだけ早期に申請を行い、平成24年度中に、移行の認可を取得し、同年度中に登記の完了を目標とする。

加藤常務理事より、200周年記念事業の主要事業の成果について説明があったあと、

木島理事長より、追加報告事項として、

- (1) デジャン駐日大使が、ポルスキ前大使同様に、当協会の名誉会員に
- (2) 平成23年度評議員・顧問の報告。3月末をもって退会、評議員を辞任された木田寿司氏に対し、協会発展のため長年の同氏尽力に対して謝意表明。があり、第55回通常総会は16時15分に閉会した。

上記通常総会終了後、同総会で選任された理事により、平成23年度第2回理事会が開催された。

互選により以下の通り役付理事が決定し、新体制がスタートした。

会長	友國 八郎	重任
副会長	木島 輝夫	重任
理事長	木島 輝夫	重任
常務理事	荒尾 保一	重任
同上	加藤 勝巳	重任
同上	白鹿 敦己	重任
同上	高安 宏治	重任
同上	鶴岡 忠成	重任
同上	中野 恵正	重任

尚、ラウル・デジャン駐日大使並びにIDBアジア事務所長上田善久氏に於かれては、ご多忙にもかかわらず、上記通常総会/理事会終了後、会場にお見えになり、一言ご挨拶を頂くとともに、引き続き催したコーヒー・ビュッヘで総会出席者の皆さんと懇談頂きました。

## 2. 6月10日 長田小学校 (茨城県境町)

### —「アルゼンチンの日のつどい」



友情（愛）と国際化（交流）を大切にしている長田小学校と在日アルゼンチン大使館の友好関係は、今年で78年目。恒例の第23回「アルゼンチンの日のつどい」が、今年も6月10日（金）長田小学校で開催された。



豊かな農産物生産地域の境町は、東日本大震災・原発事故により地元物産品の出荷で、多大の風評被害を被っている状況の中、また、長田小学校は校舎の建て替え工事中にも拘わらず、児童生徒、倉持校長をはじめ学校関係者並びに野村境町長ほか町関係者が、今回初めて来校のラウル・デジャン大使夫妻を暖かく心をこめて迎えられた。



交流給食会の後、13:00時から体育館で開催された交流集会は、生徒代表のスペイン語での歓迎の言葉、続いて全校児童でのサンバ・デ・ミ・エスペランサの合唱で始まり、2ヶ月間に亘り練習してきた児童の歌、踊り、鼓笛演奏等の発表があり、会は盛り上がった。デジャン大使ご夫妻は、自ら児童達の中に溶け込まれ、児童達と一緒に何度となく写真撮影。同大使ご夫妻も学校を取り巻く雰囲気、児童の明るい対応に感銘されていた。

デジャン大使より、この日、6月10日は、アルゼンチンにとっても記念の日「マルビナス戦争（フォークランド戦争）の記念日」で、毎年政府からメッセージがある日で、このような日に素晴らしい体験をして、これから毎年来校の機会を楽しみしている旨ご発言があった。（マルビナス＜英名では、フォークランド＞戦争は、長年英国との領土紛争下にあったマルビナス（フォークランド）諸島に、アルゼンチンが1982年4月2日侵攻し、始まり、1982年6月14日、アルゼンチン側の降伏により終結した。）



### 3. 6月14日 特別企画 「タンゴ音楽の集い」が、中止に

タンゴダンスのマエストロ “エドワードとグローリア”を招き、特別企画「タンゴ音楽の集い」を企画し、6月14日にアルゼンチン・タンゴの歴史と魅力、及び

アルゼンチン・タンゴと日本についてセミナー開催並びに同カップルを交えて懇親会を開催予定していたところ、6月4日チリ南部の火山爆発によりブエノスアイレス空港が一時閉鎖して、両氏の来日フライトが延期となり、やむなく開催中止となりました。

参加予定されていた皆様には、ご迷惑をおかけしました。

両氏は、その後日本着、6月18、19日、横浜港大榎橋ホールで開催の第8回タンゴダンス世界選手権アジア大会の審査委員長を務められ、また二人の素晴らしい踊りを披露されました。6月14日の「タンゴ音楽の集い」では、エドワードとグローリアおよび2009年タンゴダンス選手権世界大会サロン部門世界チャンピオン山尾洋史・恭子（HIROSHI & KYOKO）が特別にダンスを披露してくれることになっていただけに、今回の中止は、やむを得ないこととはいえ、残念でした。

“エドワードとグローリア”は、6月23日、50年前、1961年当時15歳と25歳の若者カップルで来日時の貴重な映像とエピソードを披露してくれました。

本紙の飯塚久夫氏の記事「タンゴダンスのマエストロ、タンゴ史の生き証人の来日」をご高覧ください。



6月23日タンゴ・セミナーにて、グローリアさん、高場将美さん（日本タンゴアカデミー副会長、当日は通訳ご担当）、エドワードさん

## 会員の海外公演の案内・活動報告

### 1. 8月27日 小原みなみ氏 ブエノスアイレスでコンサート

当協会の会員でタンゴ歌手小原みなみさんが、芸能生活25周年記念スペシャル・コンサートと題し、来る8月27日（土）、本場ブエノスアイレス市で公演します。

小原さんは、これまで何度となくブエノスアイレスを訪れて公演もしており、同地での支援者も多く、

25周年記念に相応しいコンサートが期待されます。

コンサート観賞と共に市内、イグアスの滝等を観光する格安8日間ツアー（8月24日～31日）が、日通旅行社で企画されています。

詳細問合せ先：

日本通運（株）東京旅行支店、SIT企画販売課

電話：03-6251-6385, Fax.03-6251-6365

担当：櫻井・濱田

## 2. 1月29、30日

### 香坂 優氏ブエノスアイレス公演の舞台が現地観劇者を魅了

当協会会員でタンゴ歌手の香坂 優氏は、去る1月29日、30日に、東京都認可の文化助成案件で、同氏総合プロデュース・主演の「情炎—源氏物語」をブエノスアイレス市内の日庭園施設で舞台上演した。これには、日本外務省、駐日アルゼンチン大使館、当協会及び現地の東西学院が後援した。



駐日日本大使公邸にて；荒井 姿水氏（琵琶奏者）、  
松井 彬氏（喜多流シテ方重要無形文化財総合認定保持者）、  
香坂 優氏、石田 仁宏大使

香坂さんは、タンゴを真に身につける為これまで度々ブエノスアイレスを訪れており、また、1998年日亜修好100周年記念祝賀行事の際、日本人、アルゼンチンのタンゴ歌手の中から選ばれて歌った人で、ブエノス



出演者全員で



上演舞台

アイレスのタンゴ界では「着物を脱いだタンゴ歌手」（エキゾチズムで勝負するのではなく、歌そのもので勝負している）として、アルゼンチン人タンゴ評論家から好評を以って迎えられている歌手。

この公演内容は、能とタンゴが織りなす源氏物語—六条御息所の愛と怨念を中心に展開する舞台で、すれ違い・愛・情熱・悲劇はタンゴの歌詞にも共通するテーマです。

日本最古の伝統文学と、どちらもユネスコ世界遺産でもあるタンゴと能の融合（フュージョン）は、素晴らしい舞台を演出し、香坂氏の素晴らしい解釈での舞とタンゴの声は、観客の心を引き付けた。

両日共に会場は満席となり、現地の各新聞が取り上げて、好評記事を載せた。

尚、公演に先立ち1月26日には、ブエノスアイレス社会博物館大学講堂において、喜多流シテ方重要無形文化財保持者松井 彬氏と琵琶奏者荒井 姿水氏による“能”と“琵琶”に関するセミナーを開催し、日本の伝統芸術を紹介された。



能とタンゴ・ダンサー

# アルゼンチン関係のニュース紹介

## 1. JETROの経済ニュース (2011年6月28日時点)

アルゼンチン、ブラジル両国間で懸案となっている通商問題の解決に向けて、6月2日にジョルジュ産業相（ア）とピメンテ開発商工相（ブ）が会談した。その結果、ブラジルが5月に導入した自動車向けの非自動輸入ライセンス（NAIL）については、ブラジル側がアルゼンチンからの輸入車に対して、速やかな通関手続きに務めることで合意した。

スーパーマーケット売上額は、2011年4月に前年同月比（実質）で16.4%増を記録するなど順調に推移している。消費の中心地である首都ブエノスアイレス市では、2001年の経済危機以降、中国人経営の小規模スーパーが急増しており、大規模店舗を展開してきた地場や欧米などの大手小売企業のほか、地場の伝統的小売店も小規模スーパー事業に参入し始めた。

国家医薬品・食品・医療技術監督庁（ANMAT）は、5月10日、同庁所管の製品（食料品、医薬品、医療機器、医薬品原料など）の日本からの輸入について、放射性物質に汚染されていないとする輸入業者の宣誓書の提出を求めることを決定し、即日適用した。

自動車製造協会（ADEFA）は、4月5日、2011年第1四半期の自動車生産台数を前年同期比28.2%増の15万9,486台と発表した。また、自動車代理店連合会（ACARA）の発表では、同期の新車登録台数が27.5%増の23万185台を記録。10年末から続く政府の保護主義政策の影響で、新規登録台数は減少すると予想する向きもあっただけに、意外感を与える結果となった。

## 2. サッカー・アルゼンチン・リーグ、1部の名門リーベル・プレート（River Plate）2部に降格

AFP（フランス通信社）ニュースによれば、亜の名門リバー・プレート（以下リーベル）が、クラブ創設110年目にして初めて2部に降格決定した。

2部のCAベルグラノ（CA Belgrano）とのI部2部入れ替えプレーオフ第1戦を0-2で落としていたリーベルは、6月26日、本拠地モヌメンタル・スタジアム（Monumental Stadium）で行われた第2戦で1-1の引き分けに終わり、ルールによって降格決定した。（2得点差以上での勝利であれば、降格を免れた。）

スタンドのサポーター間で暴力行為が起こった為、試合は後半44分で終了となり、2試合合計スコアは、3-1となり、ベルグラノがI部昇格となった。

ブエノスアイレスを本拠地とするリーベルとボカ・ジュニアーズ（Boca Juniors）の対戦は、最高の人気を呼ぶマッチで、世界でも最も激しいダービーマッチの一つに数えられているが、もう行われなかった。

名門クラブを降格の憂き目にあわせたリーベルの選手は、試合終了後涙を浮かべながらそれぞれ抱き合っていた。リーベルのサポーターはピッチに物を投げ込み、この事態を收拾するため消防士がサポーターに向かって放水を行った。

事態は、スタジアムの外まで広がり、連邦警察が馬や放水銃を駆使して暴徒の鎮圧を図る映像がテレビに流れた。当局は、この衝突により、68人が負傷、50人が逮捕、15台の車両が破壊され、2名の警察が頭部を負傷し重体と発表している。この試合に2200人の警官が動員された旨報じている。

ラプラタ河（Rio de la Plata）の英名を名前に持つリーベルは、1901年に創設され、1930年代にはライバルのクラブから選手を獲得する為多額の移籍金を費やしたことで知られている。これまでにリーグ制覇33回、2度のリベルタドーレス杯（Copa Libertadores de America）優勝、また、トヨタカップ（Toyota European/America Cup）制覇をも果たしている。

アルゼンチンI部リーグで、まだ降格経験の無いチームは、ボカ・ジュニアーズとインデペンディエンテ（Independiente）の2チームとなった。



## 協会ホームページの活用お願い <http://argentina.jp>

アルゼンチンにかかわる興味ある情報やイベント案内を出来るだけタイムリーに会員の皆様にお伝えするように、上記ホームページ（HP）の掲示板に載せることにしております。

掲示板には、誰でも自由に入れますので、どうぞ気軽にご意見など掲示板にお書き込みいただき、協会、会員間の情報交換の場として活用ください。

「イベント案内」「掲示板」への迷惑書き込み防止のため、所定のパスワードを入力して閲覧して頂く方式に変更しております。HPフロント画面から、次の通り行い、ご活用下さい。

- (1) 「イベント案内」、「掲示板」をクリックしますと、“ユーザー名とパスワードが必要です”との認証画面がでます。
- (2) 「ユーザー名」欄および「パスワード」欄の両方に、「llao01」（半角英数）を入力し、「パスワードを記憶する」欄にチェック・マークを入れて、「OK」をクリックする。
- (3) 次回目からは、認証画面で「OK」をクリックするだけで閲覧できます。

## 「協会だより」について

「協会だより」は、これまで年4回発行を原則として、皆様にご案内してきました。

年2回発行の「会報」と併せて内容の充実を図ること、並びに経費の効率化を図る為に、本年から年2回の発行に変更させていただきます。

「協会だより」、「会報」夫々年2回の発行とし、中身の充実鋭意努力しますので、ご理解の程お願い申し上げます。

## 住所変更届けのお願い

ご住所が変わりました際は、早めに新住所を協会事務所にご連絡ください。

電話：03-3501-4684

FAX: 03-3595-3932

E-mail: [argentina@nifty.com](mailto:argentina@nifty.com)

## 平成23年度 年会費納入のお願い

本年度（平成23年4月1日～平成24年3月31日迄）の年会費のお支払が未だお済みになっていない方は、早めにお振込み戴きますようお願い申し上げます。

個人正会員： 1万円

個人賛助会員：5千円

## 編集長よりの御礼

東日本大震災被害地の皆さま方には、一日も早く復興されますことを心よりお祈り申し上げます。

ルイス・J・アレギ新公使ご着任、ようこそ日本に。

新公使は、日本には2回目の在任で、益々のご活躍をお祈り申し上げます。

執筆、原稿につきましては、飯塚久夫日本タンゴアカデミー副会長様（当協会理事）、三沢まり様にご協力頂きました。

スペイン語のサマリー（Resumen en castellano）は、パプア・ニューギニアで勉学中にも拘わらず、イレネ賀集さん（当協会理事）に作成して頂きました。

この場をおかりしまして、皆様のご協力に対し、厚く御礼申し上げます。

本会報のデザイン、記事の無断転用はお断りします。

## 日本アルゼンチン協会会報 第58号 2011年7月28日発行

発行人 木島 輝夫（当協会副会長兼理事長）

編集長 加藤 勝巳（当協会常務理事）

編集発行 社団法人 日本アルゼンチン協会

〒105-0004 東京都港区新橋 1-17-1

電話：03-3501-4684

FAX：03-3595-3932

E-mail： [argentina@nifty.com](mailto:argentina@nifty.com)

URL： <http://www.argentina.jp>

印刷 株式会社 アイデア・インスティテュート